

場所的論理と宗教的世界観

西田幾多郎

人は必ずしも藝術家ではない。併し或程度まで
は、誰も藝術と云ふものも理解する。ことごと
く、人は宗教家ではない。併し或程度まで
併し人は或程度までは、併し或程度までは
かてき。無利入信者の熱烈な告白偉大な
宗教家の信念の表現と読めば何人も喜ぶと
か心の底までも鞭打たれ

ヘーゲルがイェーナでナポレオンの砲弾を

聞きつゝ現象学を書いてゐたといふつもりで

毎日決死の覚悟を以て書いてゐます

私の論理について

(一九四五年四月十三日、久松義一宛書簡)

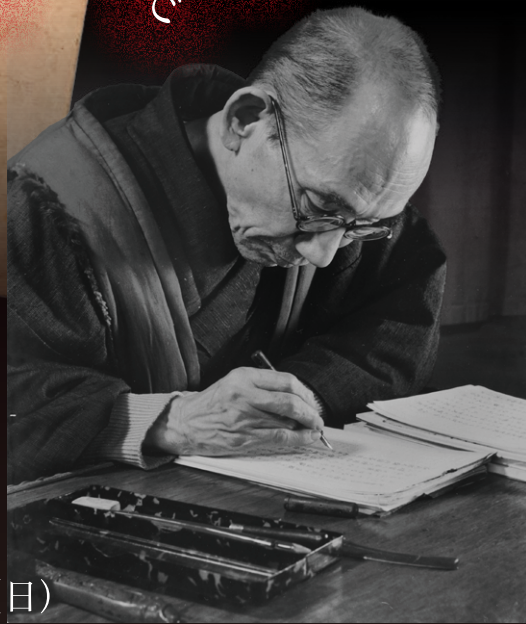
西田幾多郎

私は多年の研究の結果、我々の歴史的行爲的
自己の立場からの思惟の形、即ち歴史的行爲的
論理と明し得たと信ずる。従来論理は、
すべからず抽象的、概念的、自己の立場から
の論理とよび、
あつた。私は私の論理によつて
学の根本的質問を

西田幾多郎没後80年特別展

書き続けた

論文
—西田幾多郎の終焉—



西田幾多郎は一九四五（昭和二十）年六月七日、鎌倉の自宅で亡くなりました。七十五歳の生涯を終える直前まで、幾多郎は自らの考えを形にし、それを後輩たちに理解してもらいたいと願いながら、必死に書き続けました。同時に、戦況が悪化し紙の配給が途絶えるなかで、幾多郎の論文刊行に尽力した多くの人々がいました。幾多郎の決死の覚悟と、その願いを叶えようと奔走する彼等の姿を紹介します。

2025年
3月25日(火) — 9月28日(日)

関連イベント（講演会）

■2025年度西田幾多郎哲学講座①

5月17日(土) 13:30 ~ 15:30 (参加費500円* / 申込不要)

「西田幾多郎 — 絶筆にこめられた思い —」

机上に残された絶筆「私の論理について」、そこに込められた哲学者の思いを紐解きます。

講師・浅見洋（石川県西田幾多郎記念哲学館館長）／哲学ホール

*西田幾多郎哲学講座の年間受講者（全10回・2,000円）は不要。

■第81回寸心忌 記念講演会

6月8日(日) 13:30 ~ 15:30 (参加費無料 / 申込不要)

「西田幾多郎の宗教哲学 — 真宗との関係を中心に —」

最後の完成論文「場所的論理と宗教的世界観」で、真宗の信仰を普遍的な宗教哲学として展開した軌跡を辿ります。

講師・竹村牧男（東洋大学元学長）／哲学ホール

右上：最後の完成論文「場所的論理と宗教的世界観」（初公開）
上左：絶筆「私の論理について」

石川県
西田幾多郎記念哲学館
Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126 石川県かほく市内日角1

TEL (076) 283-6600 FAX (076) 283-6320

URL <https://www.nishidatetsugakukan.org/>

E-mail nishida-museum@city.kahoku.lg.jp

■facebook / Instagram でも関連情報を随時更新しています。



観覧時間 ■ 9:00 ~ 17:00 (入室は16:30まで)

休館日 ■ 月曜日 (祝日の場合は翌平日)、メンテナンス期間

観覧料 ■ 一般300円 (団体250円・20名以上) / 65歳以上200円

／高校生以下無料 障害者手帳をお持ちの方および介助者1名無料

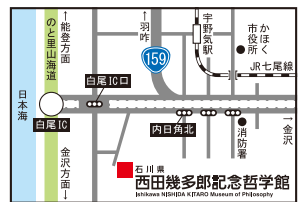
交通アクセス

【車利用】北陸自動車道 [金沢東IC] - 国道159号線 (約20分)

のと里山海道 [白尾IC] - (約5分)

【JR利用】金沢駅 - JRいしかわ鉄道線・七尾線 (約25分) - 宇野気駅 -

徒歩 (約20分) - 哲学館



2025年

3月25日(火) - 9月28日(日)

書き続けた論文

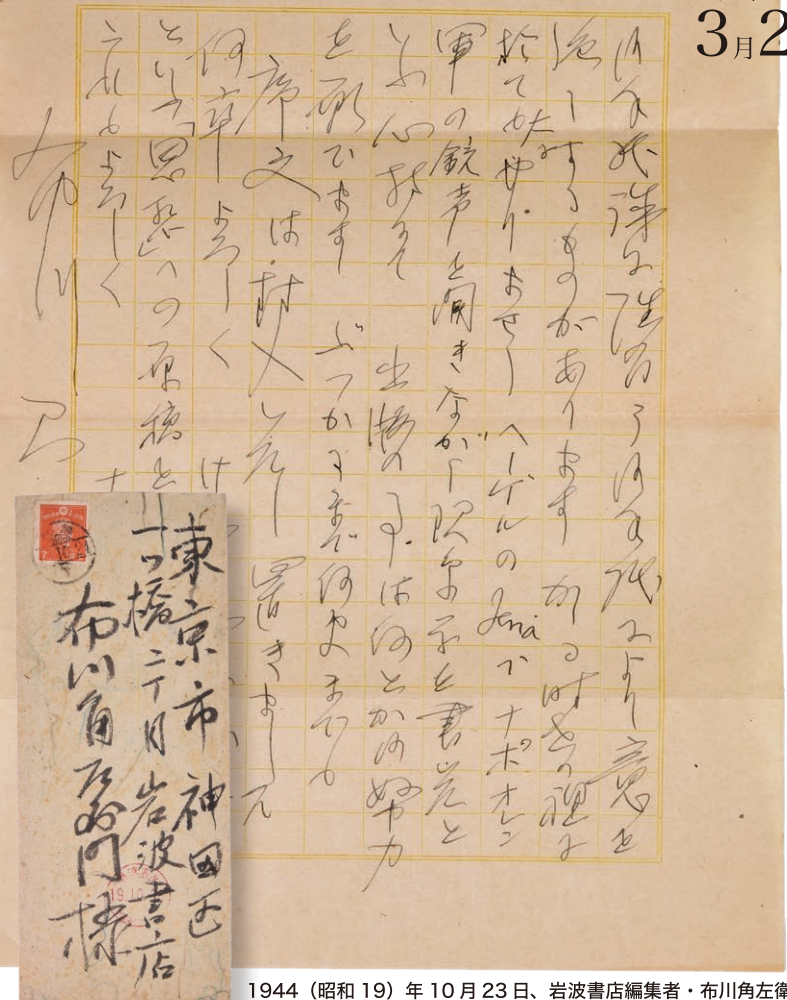
〔西田幾多郎没後80年特別展〕

―西田幾多郎の終焉―



鎌倉の自宅前で、幾多郎と妻 琴

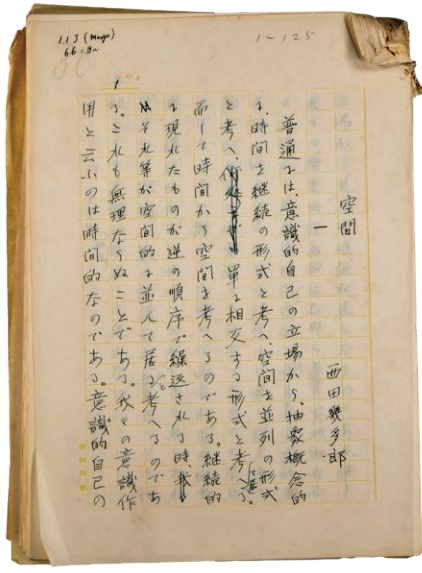
御手紙誠に難有う 御手紙により意を強うするものがあります
かゝる時世のうちに於ても大にやりませう ヘーゲルの Jena で
ナポレオン軍の銃声を聞きながら現象学を書いたといふ心持にて
出版の事は何とか御努力を願ひます ぶつかるまで何処までも



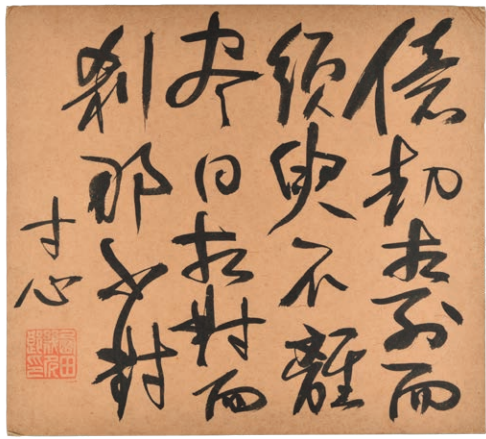
1944 (昭和 19) 年 10 月 23 日、岩波書店編集者・布川角左衛門宛書簡



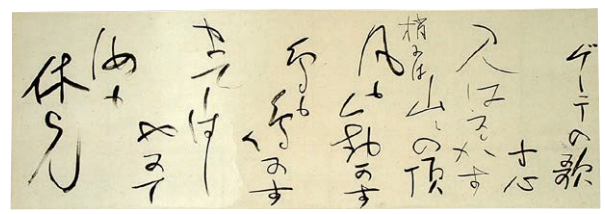
鎌倉の自宅*縁側で読書する西田幾多郎
*現・学習院西田幾多郎博士記念館 (寸心荘)



上「空間」西田幾多郎直筆原稿
右「空間」複写原稿
(京都大学文学研究科日本哲学史専修所蔵)
空襲で焼失することを恐れて、西田の直筆原稿を関係者が複写した。



西田幾多郎書「億劫相別而須與不離
尽日相對而剎那不對」
大燈国師の句。論文「場所的論理と
宗教的世界観」の中で、西田は「逆対
応」についてこの句をひいて説明して
いる。



西田幾多郎書「ゲートの歌」(個人蔵)
見はるかす 山々の頂 梢には 風も動かす 鳥も鳴かす まてはしし やか
て 汝も 休らん
西田が訳したゲートの詩「旅人の夜の歌」(Wandrer's Nachtlied)の一節。
哲学者九鬼周造の墓石側面にも同じ詩が刻まれている。